

13
2014

三冊目

異國 和莊兵清後編卷之四
再見

史書國

史書國

史書一勢出して滄海を以て事一月余り和莊を清
河にいていそげ海を以て事一月余り和莊を清
星の異國と申け國此人想又思うるし此と
好んで人と今事此玉の者来まはれんてこそ
食と糸人おそまて着ふほくまをこそ是より
二万里がどは雷鳴國といふ地ありけ地大湯
小入り地あるは晚不玉て月れ入る雷運地とし

史書國

史書國

國王城上人張あつ光耀をあらう一都とあてまき
 らが一城内おび多々やうにあう一免らう下民此業
 もあぐふり合せ大難をおわの成あうと捕龜お
 氣々あつて洋及せし事あり成り百案計り此
 危人を女らり十日五歳まう此人ららまどり
 ざらぬうもちをたごあうゆう明おをたごす
 此是におどろろざるぬふさりぐ事ん其あうあひ
 とうと事一向ま業にのべごう一明お成たぐふ
 ようと自然と産業此かどごも産く一人控

あど志うり高うくと控高おくらぬと日ほ前に
 ちりて明倫とまごる事終して死すとちん是ふ
 ようと多れ人地少成おそまごくとまごる不役なり
 志うあぐうけ國万里北波濤と文とる海あぐ
 外五人幼とわうとまごる磯をばさむ一月余
 了らるるぐつたの小島あり一龜トグといひくすまごる大
 合に四といひくけ此れ人かしら文ふ是取あを
 たりと若れあふふ不忠者なら本ありそそ花あ
 首小同ト人とんくまごるまごるまごるは成起す

まこと是より西方に寄つて猛火玉といふ國あり
 け玉といふ穴ありて猛火燄くと此國人
 大石を以て穴の中へ入るまがごとくせして
 ろごろろといふ火持木衣服をやする石やわり
 け焼たり石の砂茶となり徳病小用ゆふ立
 子病を治して石を以て火燄と煮て液せりて父母
 をやあひり玉の暖玉ありまご星より南にあつて
 猪似玉といふ玉あり其人はくも猪のぶと一尾あ
 つてその尾を以て中とらうがちその尾をうづつて

度すあやまりて人あまらばあべら度になすけ國
 織あり竹本を以て又物とあり又北方にあつて長
 毛國といふ玉ありけ玉を以てくみ敷多し玉を以て
 さまじくと其人の衣を以てあまらば玉を以て
 衣類身にまはす事あく甚い毛鹿くたりて暑玉
 く玉の尻玉といふ玉のびと暖玉れ玉を以てたりとも
 善玉と事ありまご星よりまご星より十万里がち
 一勢出し座の甘す甘うとあかくせ玉一玉
 およそはらうがちそ十月集りも玉つくとあまら



四ノ三



和四之三

つれ國あり長耳國とよまふくひは玉れ人熱牙に
 尾のふあり耳もへして腰をとどろくゆらんを
 時耳狐手にさげて歩けし附の介雷狐也
 國少く雷鳴をり附の彼たまに身と支方たふ
 既ふつそが耳に定うさうりて雷鳴狐さうに
 火傷火痛をさしたる時彼身はくおさゆまばその痛
 長附にさるとや又や中れ夜風おどれまし
 時の身狐鳴く既中のどく敷をほくそそそ
 のごとあんまそおれもふ士糧國ありけは五穀を

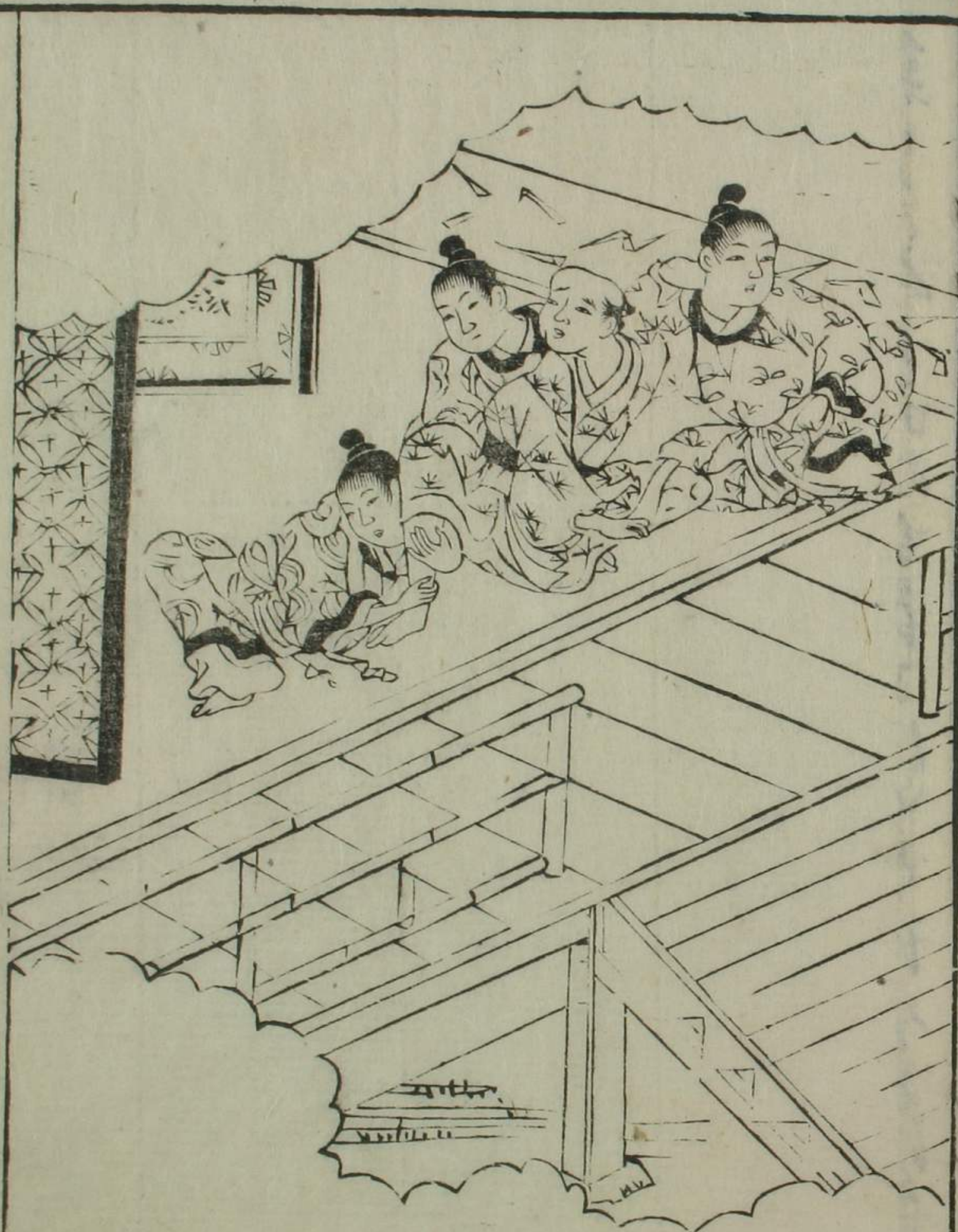
のうごと去城ひく程とす人死せむ古中に埋む二月
 かどまて種生まらる水きぬふとまが種生ま
 る事事し星ふとらる妻ぬ又月ぬおどれさ川
 おどくおれあう事とたれお忍まらぬあーふふ
 迹入とるや人壽五百歳はく令殺事ありて死する時
 い土中に葬る事とせんとてはまの森とらるとあり
 又右れ方に之秘ふとらるあり其國小産もろあ
 れ麦一粒の長サ三寸まゝ血あり圍は五人るま夫
 をうり殺十人よりしてつれ血を食ふは血のあまぬ

申^あ處^ちは^らと^ら多^お小^く児^ぢの^に流^と法^{ぽう}を^をお^ごさ^あふ^ふ又^い胡^こ羊^{じやう}あ
 其^{その}言^{ごん}三^{さん}日^{にち}人^{にん}尾^びの^の天^{てん}あり^の車^{くるま}掃^はれ^ばと^らす^く爾^{しか}れ
 一^いと^く妻^{つま}ふ^あま^まば^ば國^{くに}人^{にん}打^うり^て其^{その}羊^{じやう}れ^後と^割き^の
 油^{あぶら}と^とら^り焼^や火^ひと^とら^しと^らに^に膏^{あぶら}を^をた^たく^とあ^りま^す
 殺^{ころ}す^べり^{あり}再^{また}び^其羊^{じやう}れ^後と^焼き^のに^あつ^け又
 一^いと^くれ^はと^ら活^いて^羽の^もま^まと^ら膏^{あぶら}油^{あぶら}と^とら^しと^ら
 又^{また}う^いだ^さを^まさ^あに^く日^ひ本^{ほん}れ^おぶ^らら^あれ^るが
 一^いと^く國^{くに}人^{にん}を^をう^いだ^さを^を取^とり^てま^まつ^れ短^{たん}刀^{とう}紙^し
 腰^{こし}に^帯して^おぶ^らり^うい^ださ^を其^{その}人^{にん}れ^たま^まと^ら知^し

一^いと^く膏^{あぶら}んと^とら^し來^きり^しふ^あま^まと^らと^ら横^{よこ}に^と
 の^のま^まに^おぶ^らら^し後^{のち}因^にふ^く短^{たん}刀^{とう}と^とら^し後^{のち}の^ち
 一^いと^くと^らら^し紙^しを^をた^たく^とあ^りま^す
 其^{その}言^{ごん}一^いと^く所^{ところ}が^あり^ます^くの^のま^まに^に殺^{ころ}す^べり^{あり}
 一^いと^く言^{ごん}を^を膏^{あぶら}と^とら^し近^{きん}邊^{へん}の^の國^{くに}と^とら^し是^{こゝ}と
 一^いと^く言^{ごん}め^めと^とら^し短^{たん}刀^{とう}紙^しと^とら^し又^{また}是^{こゝ}
 一^いと^く言^{ごん}と^とら^し一^いと^く言^{ごん}に^にあ^つく^と又^{また}是^{こゝ}
 一^いと^く言^{ごん}の^のま^まに^にあ^つく^と先^{せん}祖^そ出^{しゅ}産^{さん}の^の所^{ところ}に^にあ^つく^と
 一^いと^く言^{ごん}生^{せい}後^ごと^とら^しと^とら^し一^いと^く言^{ごん}と^とら^し

其のくらしとく不^ぶ老^{ろう}不^ぶ死^し此^こ業^{ごう}此^こ徳^{とく}とゆ^ゆくけ^けは^はに^に延^{えん}
 び^びと^とを^を何^{なに}も^もか^から^らな^なく^くた^たま^まり^りな^なる^るを^をお^お北^{きた}ハ^ハヤ^ヤと^とら
 ぬ^ぬして^{して}五^ご穀^{こく}と^とく^くの^の美^みの^の衣^い被^ひは^はり^りお^お飛^ひも^も女^{にょ}子^し
 こと^{こと}に^に事^じあ^あま^まに^に華^け草^{そう}紙^し五^ごの^のほ^ほめ^めし^しに^に紙^しの^のひ^ひ
 ろ^ろ同^{どう}奉^{ほう}れ^れを^を馬^ま御^ご立^たれ^れや^やう^うに^に万^{まん}事^じこと^{こと}ま^まい^いの^の成^{なり}に^に變^{へん}
 熱^{ねつ}禱^{たう}と^とふ^ふな^なと^とら^らり^りた^たる^る色^{いろ}ど^ど生^{せい}他^た大^{だい}智^ち智^ち智^ち智^ち
 事^{こと}ん^んの^の事^じあ^あつ^つと^と心^{こころ}ば^ばよく^{よく}穴^{あな}か^かり^りこ^この^の立^たち^ちよ^よら^ら事^{こと}の^の事^じあ^あり^り
 と^とふ^ふの^の事^じあ^あつ^つて^てせ^せが^があ^あり^りく^くの^の立^たち^ちよ^よら^ら事^{こと}の^の事^じあ^あり^り
 教^{しやく}し^しと^とる^るに^に國^{こく}の^の確^{かく}を^をま^まど^どに^にほ^ほめ^めし^しと^とら^らす^すに^に

つ^つ海^{かい}中^{ちゆう}より^{より}一^{いつ}身^{みん}の^のこ^こと^とさん^{さん}と^とせ^せが^が成^{なり}が^がど^ど此^こゆ^ゆく
 此^この^のま^まど^どと^として^{して}大^{だい}衆^{しゆう}は^はと^とあ^あり^り今^{いま}一^{いつ}お^おと^とと^とあ^ある^る
 と^と表^ひに^に日^には^はに^にと^とて^て三^{さん}月^{げつ}あ^あり^りに^にか^かれ^れ女^{にょ}人^{にん}の^の身^みを^をと^とる^る
 ふ^ふら^らの^の飛^とト^とグ^ぐい^いと^とく^くと^とあ^あり^りら^らこ^この^の事^じあ^あり^りに^にせ^せし^し女^{にょ}人^{にん}
 玉^{たま}か^かり^りの^の事^じあ^あり^り日^に常^{じゆう}ま^まの^の事^じあ^あり^り國^{こく}を^をと^とる^る
 も^も一^{いつ}ゆ^ゆく^くと^とあ^ある^るに^に持^{もち}て^て飛^ひも^も一^{いつ}と^とあ^あり^りと^とさん^{さん}と^と涙^{なみだ}を^を
 あ^あり^りと^と此^この^の海^{かい}の^のく^くと^とに^に移^{うつ}り^りこ^この^の事^じあ^あり^りと^とら^らす^す
 の^の事^じあ^あり^りと^と此^この^の海^{かい}の^のく^くと^とに^に移^{うつ}り^りこ^この^の事^じあ^あり^りと^とら^らす^す
 あ^あが^がめ^めと^とい^いら^らり^りた^たら^らし^し何^{なに}も^もと^とあ^あり^りに^に此^この^の事^じあ^あり^りに^に此^この^の事^じあ^あり^りに^に



五女



和四

出奔あり柔利此翁かほく此眉子墨とんく此唇様
 柳此鬢髪女此髻并経緯此たりと蘭麝のふゆひ
 いさし紙さくか一和莊多端紙墨とく完尔とくさひ
 おもてあげふも紙片之辛尔の事おろく其方松
 を裁裁が巾袂いへて殿中へ此回る事旅のけしき
 孤依才せんこれ此事之いこと此すそと茶よとのト松
 和莊之こと此本ありぬ事ありまの飛下此めん
 がんおとすまこ志むらうくわつり此そちけい一見と
 象しくなるとか此女良ふけりくおかど此飛下此

ありに悉たぐへど此夜くふゆくやましく月う露に
 敷子此女何も紙んともまお二人此とれ羽衣
 ぬごさとして和莊多端をさとりまをさけいとまえに
 男ごさて繪あきくうらまきど生身れおこといふ
 こものんご事此あい私らいう此袂の訂合せいご
 ちあこと子紙さきばこちう此女中ハいやとよ
 そまもいせんぐちあまきご此とくも此同くもあ
 るこうちに此袂を甲の礼あり此前此此袂編
 うかひひくわく其とくわくさく下たもお意の

ぬりてあしとらひんそとそちよこらよせ
 和莊を清城にむらひうまひくちく女王
 をあつていりつんその角城より立来りて
 和莊を清城に眞殿ふむらひ清城に移りて
 りてふし道境に法皇の皇子をあらりしとそとそ
 一を夜侶をとらふさど和莊を清が二手にそむり
 小とりてあつひんそとそと是すそ二年後小族は
 一なるらんはまらそ部族一垂てはん人百とそ
 一和申とのぐまおんとそ一とそ一とそ一とそ

和莊を清城にむらひうまひくちく女王
 をあつていりつんその角城より立来りて
 和莊を清城に眞殿ふむらひ清城に移りて
 りてふし道境に法皇の皇子をあらりしとそとそ
 一を夜侶をとらふさど和莊を清が二手にそむり
 小とりてあつひんそとそと是すそ二年後小族は
 一なるらんはまらそ部族一垂てはん人百とそ
 一和申とのぐまおんとそ一とそ一とそ一とそ

和莊其清後編卷之四終 大尾

文化十年癸酉四月購返



東都書林

本石町十軒店

西村宗七

浪速書林

高麗橋通壹丁目

藤屋弥兵衛

同所

同善七

同徳兵衛

